C・ニコルンベルガー著
 『十七歳からの聖書の読み方』 世界がわかる歴史
 教養講座 (主婦の友社)
 193 N3 1

今から約一年前の二〇〇七年六月、AP通信がイスラエルのヘブライ大学に保管されていたある文書の一部を配信しました。それはConfidential(極秘)と記されたアイザック・ニュートンの自筆原稿でした。長年に渡る聖書研究の結果、ニュートンが人類の未来について書き残したものでした。二〇〇〇年(原文は伏せ字ではありません)に人類が滅亡するという驚くべき内容を含んだものでした。ニュートンが在世していた十七世紀末の西洋では世界の終末論が巷間広く流布していて、ニュートンはそれに対して、自らの考えを述べるために聖書の研究に打ち込んでいたと思われます。それにして、物理学を研究していたニュートンが、一方で聖書を綿密に研究していたとは少々意外な感じがしますが、聖書は隠

読書案内

れたベストセラーとも言われるくらい西洋では人々に幅広くかつ深く浸透しています。さて時代は下って二十一世紀の現在、日本の若者に活字離れが進んでいるように、西洋でも若者たちはあまり聖書を読まなくなってきたようです。そうした傾向がある中、二〇〇七年も終わるうとする十二月にある本が出版されました。「十七歳からの聖書の読み方」という本です。ドイツで出版されるとたちまちベストセラーの仲間入りをしました。著者は宗教者ではなくジャーナリストなので、その視点から書かれて

いて非常に読みやすい本です。そもそも日本人は一神教の宗教であるキリスト教に関しては全くと言っていいほど分かっていないので、西洋がどういふものかわかっている人は僅かな例外を除いて殆どないようです。広範囲に渡る雑多な知識でいくらか飾り立てても、教養の裏打ちのない俄仕込みの知識はすぐにメッキが剥けてしまいます。生

徒諸君も学識の上では申し分がないと思いますが、こうした本を読んで少しでも本物の教養を身につける一助として欲しいものと思います。

マーティン・ガードナー著
 『自然界における左と右』
 (紀伊國屋書店)
 404 G1 2

今から30年以上前、まだ大學生の頃に、初めてこの本を読んだ。さっぱり理解出来なかつた記憶がある。それでもそのタイトルに興味があつてずっと気になつてた。4月に転勤してきて図書館報原稿を依頼されたので、検索しているところの本を

みつけた。早速図書館に行つて手に取つてみた。表紙の絵(写真)が妙に懐かしかった。内容は、対称非対称の話が宇宙から原子の範囲で、人間や動物界、物理化学分野の例をあげて展開されている。『なぜ鏡は左右を反転し、上下は反転しないのか』から始まり左利きの話、植物のツタの巻き方・貝殻の巻き方、光学異性体、タンパ

ク質のらせん、左巻きのDNA、電流と磁界、四次元空間、パリティ保存の法則、反粒子の話になり、最後は、1957年にパリティ保存説が崩壊した話で終わる。

鏡像関係にある異星人に左右をわれわれが理解しているのと同じようにわからせるにはどうしたらよいか。ただし、共通に観察できる非対称な物は無いものとする。『あなたならどうしますか。』
 今回もう一度読んだがやはり後半部分は理解できなかつた。自分が理解できない内容の本を紹介するのも気が引けるが、核物理や量子化学に興味のある人は一度読んでみてはどうだろうか。なお、新しく5章が加わつた新版が1992年に出ているようで、内容も新しくなつていて思つた。

山崎豊子著
 『大地の子』(上・中・下)
 (文藝春秋社)
 913 Y14 10 1 3

以前 図書館の先生にこう言

われた。「読書って実際に体験しなくても疑似体験ができる。これが出るのって地球上の無数にある生物の中で人間だけなんだよ。」と。

昨今、悲惨な事件が後を絶たない。原因は、一概には言えないが、人間関係の希薄さが大きな要因と感してならない。ネット・携帯社会と言われ、掲示板では誹謗・中傷が横行している。こんな時代を生きているみんなに読んで貰いたいのが「大地の子」である。

この作家は、非常に深くまで取材し執筆しているので、どの作品もリアリティ溢れる作品だと感じる。他の作品には、みんななじみのある「白い巨塔」や華麗なる一族などがある。

本書は、戦争中に中国で生き別れた父子の話であるが、私自身、戦争のことは祖父母や学校の授業で聞いたくらいでしかなく、みんなの世代であるとならば戦争を遠いものと感じていると思う。過去の悲惨な出来事を読書の中であつても体験し、人と人との心のつながりの大切さや、差別の卑劣さなどを考える

ことで、人権意識を高めて欲しいと思つ。そして、自分の周りの人間はもとより、世の中のすべての人が幸せに暮らせるように考へて欲しい。まずは身近なところで、クラスやクラブなどの集団の中で、周りのことを常に考へながら生活してみよう。相手のことを考へられない人は相手からも考へてもらえませんが、そして、多くの本を読み、多くの経験を積み、大きな人間になつて欲しいと思います。

- 上田 篤の本
『日本人とすまい』
524 U 2 1
『橋と日本人』
515 U 1 1
『都市と日本人』
519 U 1 2
(いづれも岩波新書)

「縁は、まことに異なるものがあり、味なものがある。」で始まる文章が建築学の専門家によるものだを知ったことは少なからぬ驚きであった。高一の国語の教科書。(担当は青木三郎先生)「この著者との「出会い」

である。大学で地理学専攻に進み、集落景観(町並み)を少しかじつた。建築分野もある程度勉強する必要が生じ、参考書の一つもりで買ひ求めて読んだらハマつた。

構造物として見ても、それが内包する意味を考へるにしても、橋は魅力的な対象物である。この著者でこの題名。府立高校社会科教員の私は発売早々に買った。この頃から、人文現象や景観の持つ意味(コード)への関心が増したと思つ。「このことは何を意味するんでしょね?」という私がよく言うせりふを思い出してください。(さら)に実用面では、「脆い橋のある場所をデートコースに選んではいけない」という教訓を後に得た。

二〇〇三年刊行。著者も相当のお年のはず。今度は扱つてイマが大きいすぎないか?不遜な考へが頭をよぎつたが甘かつた。長年の疑問であつた門前町と寺内町の共通点と相違点に関するヒントを得た。もっとも、この本の主題は「神さま」と「カミサマ」。読み込み不足で両者の違

いはもう一つ不明瞭であるが、都市の繁栄には不可欠な存在であるという。それをキーワードに皇居から甲子園球場までを読み解く。そういえば、一字違ひの存在がいる我が家は果たして繁栄しているのであつたか?

- 日本ドリームプロジェクト編
『1歳から10歳の夢』
914 N 29 1
(いろは出版)

あなたの夢はなんですか? すぐに答えられる人もいればたくさんある人、何も思いつかない人・・・ひとそれぞれかもしれませんが、夢がある人は実際に紙の上に書き出したことがありますか?

この本はタイトル通り1歳から100歳までの男女100人が思い思いのスタイルで自分の夢を書いていきます。1歳の夢? 100歳の人も夢があるの? と思つた人はぜひ手にとつて読んでみてください。一人一人の写真もあるのですがそこに写つている人の顔がどれも素敵なので

す。この本の楽しみ方はいろいろあると思いますが、私は自分の年齢を基準に現在・過去未来と比較してみました。「同じ夢をみていたなあ」、「しつかりしてゐるなあ」、「こんな風に生きていたらなあ」と思いながら・・・

そして、私も現在の夢を書いてみました(中身は内緒!)。実際に文字にしてみると不思議な感じがします。改めて自分の大切なものや可能性を認識することです。「夢」が「本当」になる気がするのです。

この本は図書館にありますのでぜひどうぞ。それから、騙されたと思つてみなさんもぜひ現在の夢を紙に書き出してみましよう。大きな夢からちいさな夢まで! 実現への第一歩?

- レドモンド・オハロン著
『コンゴ・ジャーニー』
(新潮社 上・下)
294 011 1 1 2

アフリカの地図を開く。赤道をまたぐようにコンゴ川が流れ

ている。アフリカ最大の流域面積を占めているのは、実はナイル川ではなくコンゴ川である。この川の下流域は東のコンゴ民主共和国、西のコンゴ共和国の国境線になっている。コンゴ共和国がコンゴ人民共和国という社会主義国家であつた時代に、著者オハロンは首都ブラザビルから友人と連れ立ち、コンゴ奥地のテレ湖に生息するといわれるモケレ・ムベンベという恐竜を探す旅に出発する。

旅行記とか探検記は、通例、未知の世界に対する読者の好奇心を駆り立て、あたかもスペース・ドラマのような物語に仕立てられている。しかし、本書にはそのような物語仕立ての色合いは希薄であり、文章はむしろ猥雑でさえある。現地での出来事とオハロンの回想が錯綜し、豊富な博物学的知識が充満し、呪い師の妖とした言葉が現実味を帯びて飛び交つている。

時に、頭がクラクラする。生身の人間と動植物のにおいが立ち籠めてくる。生と死が表裏一体のものであることを考へずにはいられない世界がそこにある。